

河辺 雄和  
ほっとライン

# さようなら大正寺中

## 雄和中へ伝統引き継ぐ

三、一七六人の卒業生を送り出し、この春閉校する雄和の大正寺中学校。地域とともに歩んだ五十八年の伝統は、四月から、雄和中学校へと引き継がれます。



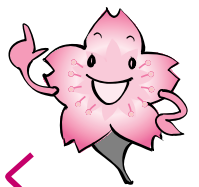
最後の卒業、3年生

大正寺中学校は、昭和二十二年五月、大正寺小学校に併設して開校しました。生徒数一九九人、六クラスでのスタートでした。緑に囲まれた静かな環境の中に、初代校舎が完成したのは昭和二十七年。ぬくもりが感じられる二階建ての木造校舎を、雑巾がけでピカピカにした思い出があるかたもたくさんいらつしやることでしょう。

生徒数は、昭和三十八年の三三七人をピークに、昭和四十年代までは二百〜三百人で推移。しかし最近減ってきて、今年度は三年生三十一人、二年生十五人、一年生はわずか五人になってしまいました。

みんな家族のように、地域の人たちの温かい“目”が行き届いていた大正寺中学校。地域とともに歩んだ学校の歴史は、この春、幕を閉じます。

そして大正寺育ちのみんなは、四月から雄和中学校で新しいスタートをきります。通学はちよつと遠くなりますが、登下校の専用バスがあるので安心です。



雄和中学校と大正寺中学校  
1、2年生の交流会

4月からもよろしく



最前列で発表を聞く大正寺中1年生のみんな

二月二十四日、雄和中学校で行われた総合的な学習の発表会に、大正寺中の一、二年生二十人が参加し、雄和中の生徒たちが地域について研究した成果を一緒に聞きました。

雄和中と大正寺中の生徒たちの交流会は、お互いの学校を会場に、昨年十二月からこれまで五回開催しています。

この日は、「雄和の自然」「雄和の祭り」「雄和の老人施設」「雄和の自慢」などをテーマに数か月間かけて調査した内容を発表。今まで深く調べることがなかった地元の問題に、みんな真剣な表情で耳を傾けていました。

四月からは同じ雄和中で勉強する両校の生徒たち。和気あいあいとした雰囲気の中で進められた発表会は、みんなの親睦を深めるのにも大いに役立ったようです。



懐かしい木造の旧校舎



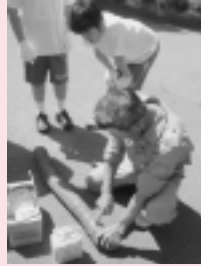
現在の校舎



大正寺おけさま祭り



大中祭



しいたけのコマ打ち体験

五人五色の1年生



やんちゃな2年生

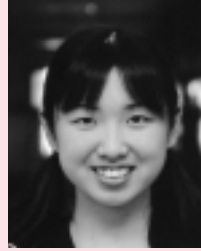


### 贈ることば



皆さんの思い  
出が甦ります  
大正寺中第一期生  
工藤光郎さん

当時は、新しく始まった英語の授業、男女共学にとまどいました。地域合同の運動会、秋田市内を観光した修学旅行、雄物川での水泳…。楽しい思い出が甦るわが母校が閉校するのは寂しいですね。



お互いの良さ、  
分かり合って  
大正寺中最後の卒業生  
齊藤美咲さん

卒業生三十一人は、小さいころからずっと一緒にでまるで家族のようでした。後輩のみんなには、大正寺中と雄和中、お互いの良さを分かり合って、四月からもうがんばってほしいです！



みんなが大きく  
はばたくように  
大正寺中学校  
佐々木時夫校長

大正寺中の生徒の後ろ姿を、地域のみなさんが応援しています。こんなにも恵まれた環境は貴重な宝物。地域を大切に、校章の鳩のごとく、一人ひとりが大きくはばたいてくれることを期待します。



三月四日、河辺のユフォーレ入口の道路沿いに、岩見三内小学校の六年生十七人がミニかまくらを作りました。  
ユフォーレに来る人たちに楽しんでもらうと、卒業記念として行ったものです。  
雪をいっぱいにつめたバケツをひっくり返して作られたミニかまくらは全部で約五十個。あたりが暗くなるころには、一斉にろうそくがともされ、幻想的な明かりの道が浮かび上がりました。

岩見三内小学校6年生が  
卒業記念にミニかまくら作り

### 灯火は思い出の中に



みんなで力を合わせて作りました

静かな銀世界をオレン  
ジ色に照らした一夜限りのミニかまくら。その光景は、子どもたちの思い出のページに深く刻まれたことでしょう。